

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	長 崎 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	諫早市立みはる台小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	21
児童数	55	59	45	51	60	64	4	338	

研究の概要

1. 研究主題

<p>・研究主題 一人一人の学ぶ意欲を高める学習の創造 ～学びが身に付く喜びを味わう算数科授業のあり方を中心に～</p> <p>・主題設定の趣旨 主題に設定している「学ぶ意欲を高める」というのは、「児童にとって学習内容が分かること、できるようになることは、大きな喜びであり、学習への意欲と結びつくものである。その上で、一人一人の児童が”何のために学ぶのか”という課題意識を明確に持ち、表面的な楽しさだけではなく、未知のものを知り得た感動、深く理解できた充実感を味わったことができたとき、児童の学ぶ意欲はさらに高まるものである。」ということである。 本年度は、学力向上フロンティアスクールの指定を受け、2カ年研究の1年次である。本校では平成4年度から算数科研究を積み重ねてきた。その歩みを生かし、本年度は学力向上フロンティアスクールとして、一人一人の学ぶ意欲を高めるための単元全体の指導形態の工夫や個に応じた学習、算数的活動を取り入れた授業等研究を深め、児童のさらなる学力向上を図りたい。</p>
---

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>実施学年 全学年・算数</p> <p>実施理由 本校は、平成4年度から算数科の研究をスタートし、またT・T加配も1名受けて研究に取り組んできたが、本年度は加配を2名に増員することができた。この体制とこれまでの研究実績を生かし、全学年の算数科におけるT・Tや少人数指導についての研究に取り組むこととした。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	
--------	--

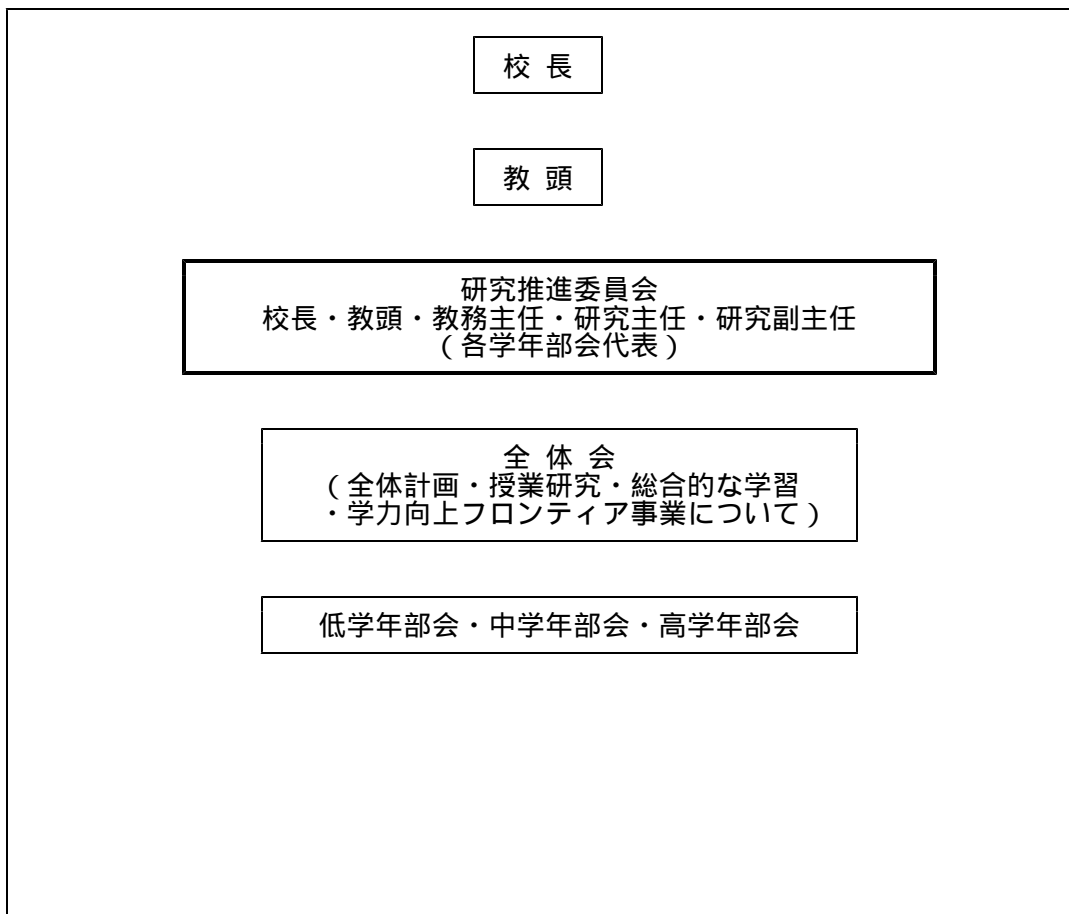
平	<p>テーマ ・研究主題「一人一人の学ぶ意欲を高める学習の創造」 ・研究副主題「学びが身に付く喜びを味わう算数科授業のあり方を中心に」</p> <p>研究の見通し ・研究仮説 単元全体を見通した学習過程を構成し、操作的・体験的活動や、様々な</p>
---	--

成 15 年 度	<p>メディアを活用するならば、子どもたちは学習することの喜びを味わい、主体的に考え、判断して授業に取り組むことができるであろう。</p> <p>・指導体制の工夫 単元全体を通して、T Tや少人数指導、習熟度別指導を必要に応じて計画的に取り入れることで児童の学力の向上を図る。</p> <p>研究の内容・方法 本年度の基本方針 学力向上フロンティア校として新しい教育のあり方を考える。</p> <p>重点課題 全員授業による授業研究を中心とした取り組み 楽しい授業の創造：体験的・操作的な活動の保障 分かる授業の創造：基礎・基本の定着 基礎・基本の定着と発展的な学習に向けた具体的な取り組み 少人数授業（T・T含む）の研究推進</p> <p>その他の課題 総合的な学習についての取り組み 完全実施の検証を行う 現職教育の充実</p>
-------------------	--

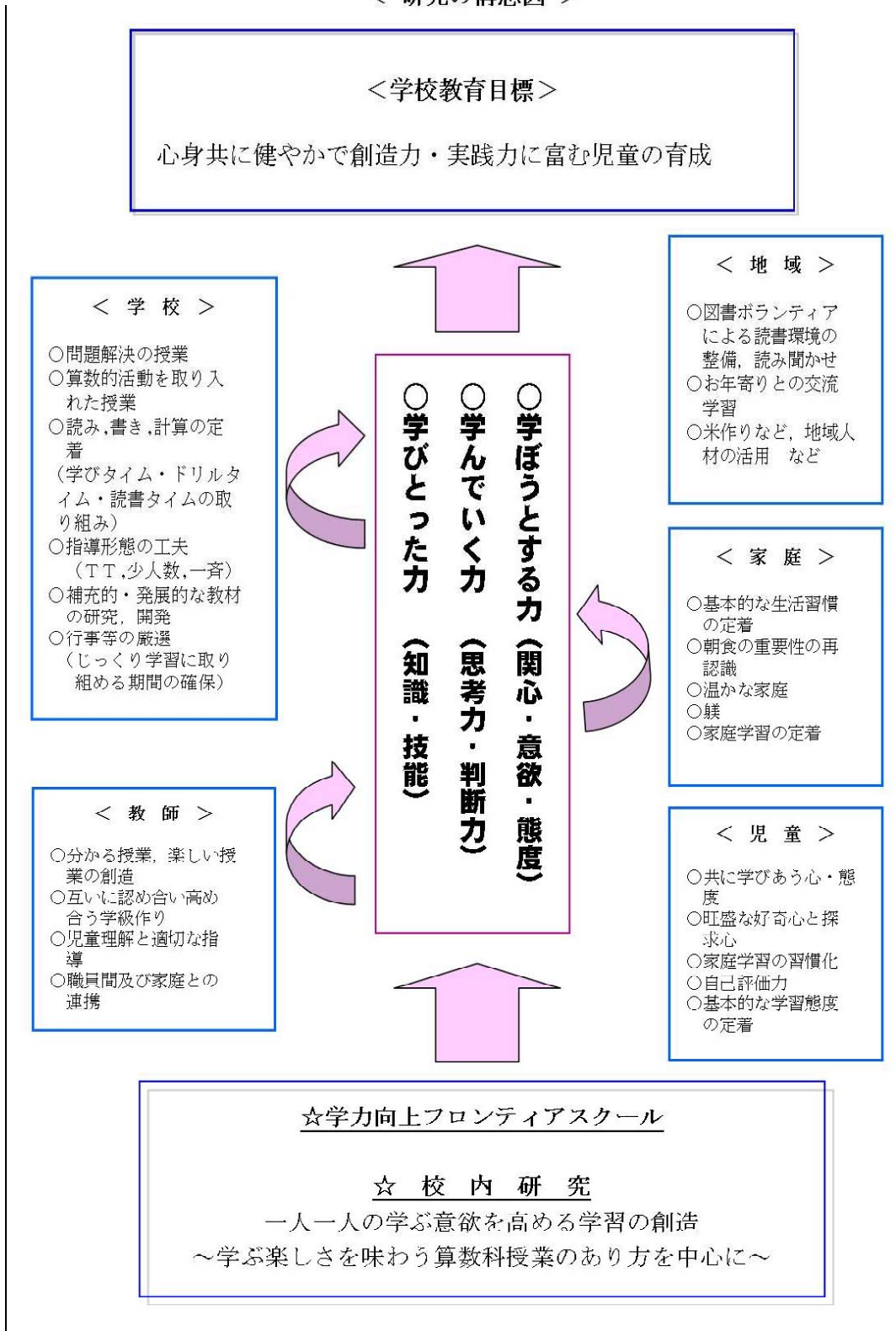
平成 16 年度	平成15年度に同じ
----------------	-----------

\* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



< 研究の構想図 >



平成15年度の研究成果及び今後の課題  
1. 研究成果

- (1) 教師の変容  
最も重要なことは、決して「少人数指導ありき」ではないということである。いかに個に応じるか、一人一人の学力を確実に伸ばすかという観点で

授業を考えていったときに、本校では、必要に応じてT・Tや少人数指導など指導形態を工夫して授業を仕組むことが大切であるということの共通理解が得られた。

少人数指導を計画する場合、次の観点で考えるようになり、授業の幅が広がってきた。

学習速度（ある事項の習得に必要なとされる学習時間のちがい）

学習到達度（ある事項を一定時間学習した段階で達成された状況のちがい）

学習適性・思考スタイル（体験学習や書物学習、機能的思考や演繹的思考等の学習や思考法への選好度の違い）

興味・関心（その個人がどの分野に興味や関心をもっているかの違い）

生活経験（その個人がどのような生活経験を持っているかの違い）

以上のような個人差は、その性格から2つに大別して示すことができる。

量的個人差... 数量化された指標によって示すことが可能

（学習速度や学習到達度）

質的個人差... 数量化された指標によって示すことが困難

（興味・関心、学習適性、思考スタイル、生活経験など）

少人数指導への理解が深まり、コース別学習を展開する場合、何のために少人数で指導するのかという目的意識が高まった。

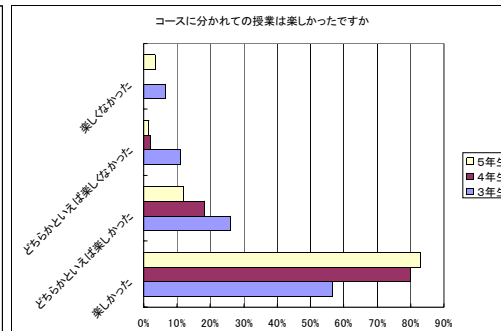
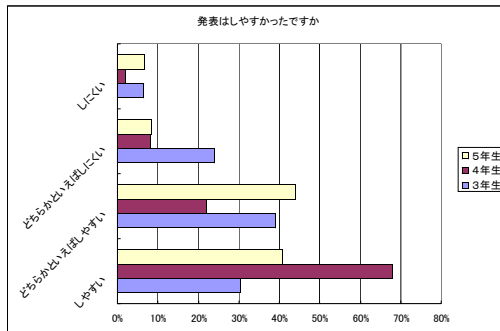
計算等もっとも基礎的な学習内容をしっかり身に付けさせたいという意識がこれまで以上に高まり実践へとつながっている。

学習内容の理解が不十分な児童に、昼休みも惜しみなく指導に当たるなど、すべての児童を引き上げたいという教師の熱意がこれまで以上に高まった。

## (2) 児童の変容

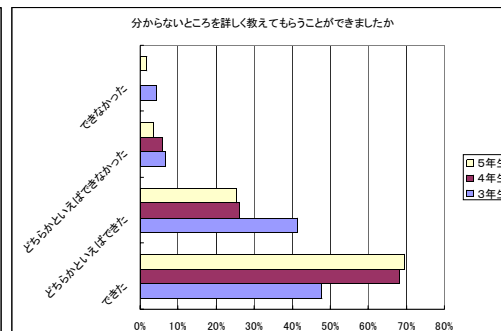
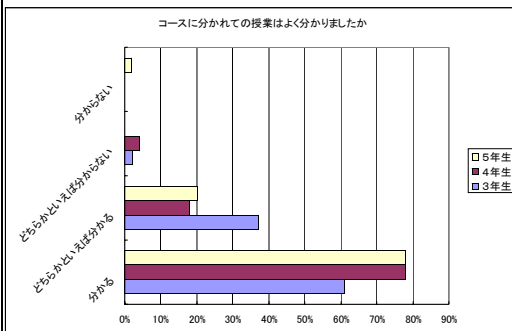
自分のペースでの学習ができ、算数が好きになってきたという子どもが出てきた。

少人数の授業での児童の表情が明るく、授業に満足していた。

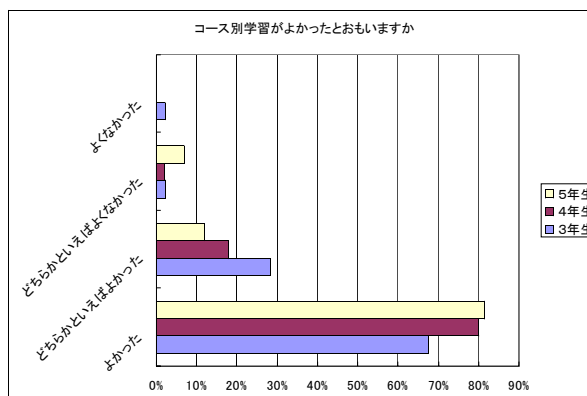


算数を苦手としていた児童も計算ができるようになり勉強が楽しくなってきたとの声が聞かれた。

単元ごとのテストを毎回分析しているが、その結果や授業の様子からも児童の学習内容の理解度も向上していることが分かる。



アンケート結果から、子どもたちの自己評価も3と4がほとんどで、子どもたちの意欲や理解度も高まっていることが把握できる。アンケート結果（右図）から、少人数指導が子どもたちに好意的に受け入れられていることが分かる。



## 2. 今後の課題

\* 研究の今後の課題を明らかにするとともに、次年度（最終年度）の研究の方向性が見えるよう記述すること。

子どもが自分でコース選択をすることが原則だが、教師もアドバイザーとして関わらないとかがえって学習が困難になることがある等、子どもたちにコースを選択させる際の配慮事項が少しずつ見えてきた。コース別にする意義を明確にし、その意義が授業の中で随所に見られるようにしていかなければならない。補充・発展については、カリキュラム上きちんとその時間を確保しなければならない。そうすることで、算数が得意な児童も苦手とする児童も、ひとりひとりを確実に伸ばしていくことができる。

T・T、各種の少人数指導のどの指導方法を選択するかは、子どもの発達段階、実態、学習内容、学校の組織、地域の協力等、あらゆる面から考慮する必要がある。

少人数指導は、個別指導や一人当たりの学習の量を増やすことができるなど長所は確かにあるが、一斉指導との違いを明確にし、一斉指導の長所も生かしていけるような指導計画を今後も模索し続けることが必要である。

子どもの自己評価力を高めることができるが、何を、どのように評価させるのかまだまだ研究が足りない。

少人数指導における子どもの実態に応じた展開、教材についてはまだまだ研究が不足している。

保護者の理解を図るために研究通信等、今後も続ける必要がある。

一斉指導、T・T指導、少人数指導等様々な授業形態は大切であるが、やはり基本となるのは「問題解決の授業」である。授業形態の研究が中心になってきており、この点についての授業研究が少し甘くなっているように思う。

学力向上フロンティアスクールとして、周辺の学校への研究成果の普及が不十分であった。

本年度から学力向上フロンティアスクールとしての取り組みが始まり、それなりの成果を上げることができた。しかしながら、わずか1年の取り組みでは、まだまだ不十分である。来年度も、基本的には本年度の研究を継続し、研究を深めていく必要がある。また、学力向上フロンティアスクールとしての在り方についても検討していく必要がある。

## 学力等把握のための学校としての取組

数研式標準学力検査NRT

目的：児童の学力の客観的把握とその活用

実施内容：算数科（全学年）

実施時期：平成15年5月14日

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

諫早市教育会算数部会授業研究会にける授業公開  
日 時：平成15年11月21日  
場 所：諫早市立みはる台小学校  
対 象：諫早市教育会算数部会会員  
目 的：本校研究について、その成果と改善点等について意見を交換する。  
学力向上フロンティア事業第2回地区協議会における研究内容の説明  
日 時：平成16年1月19日  
場 所：長崎県大波止ビル  
対 象：各校学校長及び保護者代表  
目 的：フロンティアスクール13校の研究成果を、長崎教育事務所管内の全  
小中学校に普及させるとともに、研究推進の参考資料とする。  
研究成果普及のためのHP作成（今年度中アップロード予定）  
「A 数と計算」領域におけるドリル作成と近隣の小中学校への配布（今年度  
中に配布予定）  
本校の研究を生かした平成16年度算数科カリキュラムの編成と近隣の小中  
学校への配布（今年度中）  
算数科における補充・発展問題の作成と近隣の小中学校への配布（今年度中）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下               7～12学級  
                               13～18学級             19～24学級  
                               25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導               T・Tによる指導  
                               一部教科担任制         その他
- 【研究教科】               国語               社会               算数       理科  
                               生活               音楽               図画工作  家庭  
                               体育               その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無